

【令和2年度豊岡総合高等学校関係者評価】 令和3年3月30日(火)

4:達成した 3:ほぼ達成した 2:あまり達成できていなかった 1:達成できていなかった

【学校関係者評価】

◎適切である、○ほぼ適切である、△あまり適切でない、×適切でない

部・科・学年	実践目標	評価項目	評価3,4の割合(%)	本年度の取り組みについてコメント	来年度に向けて改善方法	改善方法は適切か	具体的な改善方法について
共通	ワークライフバランス	学校行事等を精選、仕事の効率化によりワークライフバランスの確立を図る	65	業務の分業と協働を全部署において実行した。ワークライフバランスを保とうとする意識は高まった。	校務分掌の業務の分業と協働をさらに図り実践していく。ノー残業デイ、定時退勤の実践、実行ができる職場環境が急務である。	◎	実態に合った目標値を定めて継続してください。ノー残業デイをまず週1日設定。
	カリキュラムマネジメント	新教育課程の本格実施に向けて、学びの過程を地域社会と共有する。	47	教育課程の編成は教科内で検討し全体で調整した。この過程で、地域社会と共有することができなかった。来年度の課題である。	学校評議員や保護者への学びの過程を紹介する機会を積極的に設けたり、学校開放週間に来校していただく課題を計画する。	○	情報の発信が必要である。
	情報発信	一斉メール、ホームページ、学校だより等を利用し、保護者、地域、中学校への情報発信を図る	88	一斉メール、ホームページ、学校だより等担当部署が適切に対応し情報発信を行った。概ね成果があった。	ホームページの新規の切替に際して、掲載内容の充実を重点に先行。一斉メール、学校だよりによる情報発信を引き続き実施する。	◎	新聞等メディアへの発信も積極的に実施してください。
総務	月間準備予定と打ち合わせ	業務集中期に備え、計画的に準備ができるよう月間準備予定を立て、打ち合わせを行う。	70	行事予定が次々に中止・変更を余儀なくされ、月間準備予定も立てられず、前月の職員会議で承認された目先の行事の「実施要項」の変更・修正作業に追われた。	褒賞委員会・行事検討委員会など、例年より開催回数を減らしたが、会議は減らしても掲示・回覧・資料配布などにより、タイムリーな情報を職員に発信する。	◎	
教務	新教育課程の研究、計画、決定	令和4年度の新教育課程について円滑に決定する。	58	10回の教育課程等検討委員会を経て各教科、学科、総推部の意見を取り入れ、令和4年度入学生の教育課程を決定した。	細部のマイナーチェンジや運用面での検討をはかる。	○	
生徒指導	生徒心得と学校いじめ防止基本方針の見直しをおこなう。	職員の考えや実情に即した生徒心得に改訂する。また、前回の改定から3年経過した「学校いじめ防止基本方針」をより充実したものとする。	51	生徒心得について、生徒会執行部との意見交換をおこなった。また、生徒指導委員会の先生方にも意見を募り、時代にそぐわない部分の変更を行った。	生徒指導部長会や但馬地区生徒指導協議会での情報を生徒指導委員会の先生方にも共有し、問題点を改善する。	○	何事もOKはだめですが、生徒会執行部など生徒との意見交換は実施してください。
進路指導	新入試制度への対応と新型コロナウイルス禍での就職指導	進路目標を明確にするために、種々の情報提供とアドバイスや指導を行う。前年から継続して、小論文や面接指導に取り組み、充実を図る。	70	共通テスト・国数の記述問題・英語の出題形式の変更に対応するため、可能な限り模試の受験を勧めた。小論文や面接指導は学年団以外にも多くの先生方に協力いただき、生徒の進路実現に大きく貢献した。	コロナ禍から来年度の就職は厳しいことが予想される。今年度の一次不調となった3社は大企業でもあり、生徒には早めの準備や目標設定が重要となる。また、文章を読む力、書く力、話す力の養成は進学にも有用である。	○	業績の悪化している企業については、採用が厳しくなることを想定しておく。就職後の仕事の「おもしろさ」を味わうまで諦めない指導と就職先との連絡を密にする。
保健	健康教育の推進を図る	感染症予防への環境整備・意識高揚・計画的な物品購入。教育相談・特別支援教育・カウンセリングマインド研修の充実。	84	新型コロナウイルス感染症の影響により、身体計測、各種検診、教育相談、研修等、予定の変更を余儀なくされたが各部・学年・事務室等の協力により乗り切ることができた。	より一層、新型コロナウイルス感染症等感染症に対する意識を深め、予防の徹底を図る。教育相談・特別支援教育・カウンセリングマインド研修を通し、生徒の不安に寄り添う取り組みを行う。	◎	
環境建設工学	キャリア教育の充実	社会の変化に対応し、生徒の能力・適性等、個に応じた進路指導の充実を図る。	63	コロナ禍で教育活動が制限される中、官民の協力を得ながら現場見学や外部講師を招聘しての講演会、技術講習会を実施できた。	インターンシップが実施できなかったため、次年度での実施に向けて、参加対象生徒、実施時期等を進路指導部と検討していきたい。	◎	インターンシップは、受入れ側へ一歩踏み込んだ計画書を要望し確認後実習を始める。
電機応用工学	電気・機械技術者として必要な資格取得を積極的に取り組む	第二種電気工事士、技能検定試験、工事担任者試験など各種資格・検定の合格率向上を図る	56	コロナ禍で試験の中止、延期の中での取り組みとなった。2年生全員受験の第二種電気工事士では、昨年の合格率を上回らなかった。しかし、筆記試験では昨年に続き、9割以上の生徒が合格した。	全員受験の検定について、引き続き合格率が向上するよう指導方法の見直し等図ってほしい。また、任意で受験する資格についても年間予定表等を配布して受験しやすい環境を整えたい。	○	技能を中心とした指導を行う。
総合学科推進	主体的に学び、協働して課題解決に取り組む姿勢づくり	探究活動やグループワークの機会を創出しつつ、課題に積極的に取り組めるようなテキストやワークシートにて学習の支援を行う	75	インターネットを利用した課題配信やオンラインでの講演、動画配信での学習発表会など、「探究活動」の枠を広げる実践ができた。学年の協力もあり、コロナ禍に対応して柔軟な対応ができた。	地域や専門職大学などとの連携を深め、生徒の学びと意欲を深化させる契機とする。SDGsへの意識を高め、ESG活動と結びついた実践を目指す。	◎	
1 学年	基本的な生活習慣の確立と、他者を思いやる心の育成	基本的な生活習慣の確立とホームルーム活動や学校行事を通じた集団帰属意識の涵養を図る。	61	様々な活動が制限されたが、担任団の生徒理解の深さや細やかな配慮を背景に、個々の行事やHR活動を効果的に運営できた。しかし、制限が多かったことにより、各行事の概要等を受け継ぐことができなかったことに不安が残る。	各部との連携を密にし、中心学年としてこれまでの伝統を受け継ぎながら新たな形を模索していく必要がある。コロナ後の社会を見据え、「求められる人材」を育成するための具体的な方法を検討する。	○	
2 学年	個性の尊重と思いやりの心の育成を継続する。また中堅学年としての自覚をもって責任ある行動をとる	基本的な生活習慣の確立を継続しつつ、時勢の変化にも柔軟に対応していく態度を養う。また来年度に向けて、進路希望の実現の下地となる基礎学力の定着に取り組む。	51	コロナ禍により、中堅学年としてのスタートが順調に切れたとは言えない。進路指導・基礎学力の向上については多くの生徒について不安が残るのが実情である。2回の修学旅行の予定についても中止となり、学校生活に全眼についてのサポートが急務である。	進路実現という最大の目標を達成するために、不足していた進路指導の機会を増やしていきたい。この3月からすでに始める予定である。またこの時期においても高校生活の最後の1年が充実したものになるように自覚を促したい。	○	
3 学年	豊岡総合高校最高学年としての自覚を持たせ、高校生活の総仕上げを行う	最高学年にあふわしいリーダーシップをあらゆる場面で発揮させる。高校生活の総仕上げとして、一人一人の進路実現を達成する。	65	進路指導については、きめ細やかな指導を行い、概ね目標は達成できた。学力向上に努める生徒が多かった。全体的に落ち着いた生活ぶりであった。ただし、ごく一部の生徒に幼稚な行動がみられた。	Google Classroom等、アプリの活用、ネット上での情報のやり取り、IDの管理、リモート面接等、ITリテラシーの課題が浮き彫りになった。職員を含めITリテラシー能力を上げていく必要がある。	◎	リアルな交流も忘れることなくコミュニケーション能力の向上に努めてください。